

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
Ⅰ 構造評価(Structure)〔適切な事業運営〕										
(1) 理念の明確化										
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている	○				事業所理念には変更ありません。 「情報共有」と「連携」に重きを置 いた運営を心掛けています。	理念にある「利用者の立場に立つ」は最も大事な視点であ り、これが貫かれていることを高く評価したい。「利用者の 立場」とは、利用者の「ヒトとして尊厳される生活が安定し て継続できる立場」のことだと考えられる。しかし、利用者 は何からの点で介護者の援助なくしては、それができない 事情を抱えている。この「何からの点」の迅速で的確な把 握と解決策の提案は、介護者の専門性がまず求められる スキルであろう。同時に、介護者もまた尊厳ある労務や生 活が保障されなければならないヒトであり、「利用者の立場 に立つ」は、介護者が利用者の従属の関係になることでは ない。利用者と介護者とが、互いに尊厳しあえる立場に 立ったとき、互いの信頼関係も初めて形成でき、介護とい う人間にしか出来ない労務の崇高な目的が生きがいをも って継続しうる基盤ができると考えられる。この理念を引 続き持ち続けていられることを願う。	
(2) 適正な人材の育成										
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特 徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している	○				スタッフ会議(毎月開催)で定期的 に理念や事業の意図、従来の訪 問介護との違い等周知している。 新規入社時にはその都度説明を 実施している。	ヒトの生活は連続しており、土日や盆暮れもなく、また昼夜 の区別なく援助が必要になることが頻出することから、「24 時間365日対応」を前提とした形態の介護は今後ますます 必要性が高まっていくものと考えられる。	
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、 随時対応時のオペレーターの判断 能力など)の向上のため、職員を育 成するための具体的な仕組みの構 築や、法人内外の研修を受ける機 会等を確保している			○		今年度はコロナの影響で自社研 修は開催されず、事業所内での 研修のみ実施となっている。オペ レーターについては実事例を基 に適宜改善案を話し合う機会を設 け、能力向上に繋げている。		

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
I 構造評価(Structure)〔適切な事業運営〕										
(2) 適正な人材の育成										
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				定期的に面談を行いながら、職員個々の能力の把握に努めている。お互いの得意分野が相互に発揮、促進出来るよう配置におけるベアリングも考慮している。	介護分野では、労務の提供がヒトとヒトとの直接的な関係に負う比重が限りなく高く、通常のモノを媒介する業態ではないことから、スタッフの配置や連携に他の業態にはない慎重さや柔軟性を求められると考えられるが、私の知る範囲では、とても工夫されていると思われる。個々の職員の得意なスキルを的確に把握し、一律な能力を求めるのではなく、その得意なスキルを存分に生かせるような人員配置が求められる。	
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				タブレットを活用した状況共有とは別に個別カンファレンスや担当者間の介護職・看護職の状況報告等も密に行っている。また、相互間で研修を行う機会も設けている。		
(3) 適切な組織体制の構築										
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	○				同性介護での対応や複数の関わりに抵抗があるといった場合に限り利用者の希望に応じたスタッフの派遣を行う等の対応を実行できるようシフト調整を行っている。	介護分野は、買い物代行のようなモノを媒介とする労務でも、介護者の嗜好と利用者の嗜好とは逆の場合でさえあることから、利用者の嗜好を的確に把握することは難易度の高いスキルの一つであり、金銭も取り扱うことから、利用者とのふだんの信頼醸成が基礎となる。また、爪切りから排泄、入浴などに至るまでの援助は、利用者との直接的ふれあいによることから、スタッフの複数派遣など利用者に応じた的確性が求められ、もつとも苦心するところと思われるが、評価者の知る限りでは、涙ぐましい努力がなされていると評価したい。なお、介護分野は、利用者の突発事故や緊急事情を想定した余裕ある介護人員の確保が必須であろう。介護分野と一般の産業分野との本質的な違いは、機械化による生産性の向上に限度があることであり、この点は行政による介護分野における必要人員に対するしっかりとした認識と援助が求められるところである。	
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている				○	今年度についてはコロナの影響により会議を開催出来ておらず、事業所外の社内関係者を交えての問題点指摘や改善に向けての話し合いを行っている。(主にサービスの質について)	従前年度の会議録をホームページで閲覧し、大変参考になった。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
I 構造評価 (Structure) 〔適切な事業運営〕										
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備										
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				ICT(タブレット、パソコン)の活用により、自社内部署では、情報の更新、閲覧が出来るようになっている。外部へのメール送信については、セキュリティ対策を講じている。		
(5) 安全管理の徹底										
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	○				各種マニュアルを整備の上、災害が予測される場合は事前に会議にて具体的対応の検討・伝達を行っている。実績としては台風接近に備え、近隣ホテルへの前泊を行っている。	職員の安全は、同時に利用者の安全を意味するので、台風時などの対応が適切に行われていることを評価したい。なお、昨年発生した新型コロナにより職員ならびに利用者の感染対策には細心の注意が払われてきたと推定できるが、感染の発生を未然に防ぐとともに、万一発生した場合のリスクマネジメントが肝要である。この場合、通常の感染対策とともに、介護分野は高齢の利用者で占められていることから、PCR検査の定期化が必須となろう。私見では、2週に1回(できれば1週に1回)の検査が必要だと考える。介護者における感染は、一種の公務災害とみなすべきであり、検査費用の確保における行政の役割に期待したい。数種のコロナ変異株が蔓延している現状からすれば、ワクチンへの過度の依存は危険であり、「利用者の立場に立つ」観点からも、「感染者の早期発見と感染者および非感染者との接触遮断」という感染対策のイロハが重要であり、介護者である感染者の保護と補償が必須になる。依然、コロナ終息のメドが立たない現状で、このことを疎かにすると、事業所としても壊滅的打撃を受ける恐れがある。	
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○				個人情報に関する書類については鍵の掛かるキャビネット内にて保管・管理している。机上の書類についても離席時には裏返す等の対応をとるよう、会議等を通じて共有している。		

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
Ⅱ 過程評価(Process)										
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供										
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成										
①	利用者等の24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている		○			担当者会議や開始前の面談等で1日の生活リズムを確認すること、実際のサービス結果を見ながら生活リズムの把握・アセスメント時の提案を適時行っている。	評価者(家族)が知る事例では、「一日の生活リズムに着目した」介護が適切に行われていると受け取っている。利用者もまた同じ感想である。	
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				月1回以上のモニタリング実施時は介護・看護双方でアセスメントを行っている。 看護の利用が無い方も月一回のモニタリングを実施し、書面に落とし込んでいる。		
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			計画作成時はリハビリスタッフに相談し、利用者の心身機能の維持回復について意見を求めている。リハビリ提供量の変更なども提案・相談が双方で行えており、計画の変更も柔軟に行っている。		

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅱ 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成									
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			モニタリング過程において医師や看護師等の医療系サービス関係者に予後予測やリスクの有無を確認し、計画に反映している。	
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている		○			体調不良(発熱している)等の状況がみられる場合には訪問間隔を短縮したり、回数を追加する等柔軟に対応している。 要介護状態の悪化がみられる場合も先行して計画の見直しを行う等対応している。	外部者からみても自己評価と同様の評価である。利用者の家族としては、この点もっとも頼りになっており、とくに入院を必要とする場合や家族が即応できないときなど、従前の介護形態にくらべ家族の負担が軽減されている。また、利用者は高齢であることからだけでも、定期通院や服用する薬剤管理の面でも、援助を必要とすることが多い。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている		○			月に1回、必要に応じてそれ以上の頻度でモニタリングを実施し、利用者の状況変化の早期把握と計画への反映に努めている。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅱ 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている		○			介護職、看護職それぞれの専門性を生かして役割分担を行っている。時にはそれぞれの視点での相互理解も兼ね、入浴等同時にサービスに入るなど柔軟な対応も行っている。	外部者からみても自己評価と同様の評価である。介護職と看護職相互の連携、ペアリング、それに応じた援助者派遣が適宜行われていると承知している。
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている		○			医療依存度が高い、疾病リスクが高い、状態変化が見られる等、必要に応じて看護職から介護職に対して指導・助言が行われている。	外部者からみても自己評価と同様の評価である。介護職と看護職相互、あるいはかかりつけの医師との連携が適宜行われていると承知している。
(4) 利用者等との情報及び意識の共有									
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			サービス開始前の担当者会議や契約書説明の際に情報提供・説明を行っている。また、導入を検討されている段階でご本人・ご家族の了承が頂ければ、サービスの特徴や内容等の説明を行うようにしている。	外部者からみても自己評価と同様の評価である。コロナ災害のもとで、介護者を見舞うことが出来ない家族に対しても、電話や電子メールでサービスの変更時には連絡をいただいている。リハビリについては、介護者の年休などによる休業などもこまめに連絡をいただいている。年休は介護者が法律に基づいて取得することのできる当然の権利であり、介護者の休養は、長い目でみれば、利用者にとっても安定したサービスを受ける点において必要なことと受け取っている。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
Ⅱ 過程評価(Process)										
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供										
(4) 利用者等との情報及び意識の共有										
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	○				計画書の中に本人・家族の目標及びその内容を記載し、十分な説明を行っている。 またご質問は随時受け付け、その都度説明をさせて頂いている。	評価者の知る事例では、利用者は自らが受けるサービスの内容をよく理解しているようであり、その提供に大変満足している。評価者の利用者の場合は、サービスの提供が曜日によって決まっており、月曜日と水曜日はリハビリ、火曜日と金曜日は入浴、(月に2回の木曜日は訪問診療)、こうしたリズムカルな援助は、利用者の家族にも安心を抱かせるものとなっている。なお、利用者の状況とは、たんにソフトの面だけでなく、居宅の条件や居宅の環境にもおよぶことから、介護事業者では解決しがたい場面にも遭遇する可能性がある。2020年度の事業報告によれば、サ高住に隣接して「2号館」が来年オープンすることであり、サ高住入居の利用者とその家族である評価者との電話による会話にも最近この話題がのぼることがある。従前からのサ高住の入居者である利用者は、入居時の現況を前提として入居しており、利用者の住環境にどのような影響があるのか様子を見守っている。サ高住に直接問い合わせたところ、2号館建設の着工に関する件は、利用者の家族にも近々お知らせをいただける準備をしているとのことである。	
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				状態変化やその伴う訪問回数の変更などは適時家族への報告または相談を実施している。基本は電話連絡にしているが、家族の希望がある場合はメールでの連絡も行っている。	評価者の知る事例では、窓口となる家族への連絡は的確になされており、とくに新型コロナにより面会が出来ないことから、利用者に対する家族への電話とりつぎが定期的かつ円滑に行われていることを高く評価したい。	
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント										
(1) 共同ケアマネジメントの実践										
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				状況の変化に対しては適時ケアマネジャーに報告し、相談しながら日時の見直し等を図っている。		
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている		○			自サービス一つで完結するものではないと考えているため、出来る限りの他サービスの導入の提案は行わせていただいている。(新規・継続を問わず、デイサービス利用率は60%以上)		

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況						
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない			
Ⅱ 過程評価(Process)										
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント										
(1) 共同ケアマネジメントの実践										
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				担当者会議は概ね参加しており(参加できない場合は照会を行っている)、その他の機会でも変化があれば適時関係者への情報提供を行っている。		
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献										
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)							
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)						利用者の病院への入院時には、利用者は介護保険から健康保険に移行するため、そこに介護の隙間が生じ、利用者および家族の自己責任になるために、入退院にともなう緊急で煩雑な課題は家族の悩ましい負担であった。この課題に対するサポートが、従前の介護形態とは異なり、的確に行われるようになって非常に助かっている。利用者と病院との取次は、今後ますます求められる分野になるのではないかと。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅱ 過程評価(Process)									
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)						
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				事業所ホームページにて介護・医療連携推進会議録を公表している。	従前年度の会議録をホームページで閲覧し、大変参考になった。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	○				ホームページの設置以外に居宅事業所への事例発表も行っている。今年度はコロナの影響で実施出来ていないが、理解度も深まり、問い合わせや新規導入も増えている。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅱ 過程評価(Process)									
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			前年度に引き続き、行政の事業計画については閲覧、回覧を行っている。 今年度はコロナの影響もあり研修会や報告会への参加が出来ていない。	行政と介護現場はギブ・アンド・テイクの観点から、行政の事業計画をよく知るとともに、行政もまた介護現場の実情を把握するため、ボトムアップが重視されなければならないと考えられる。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている		○			特定の建物に限定はしていない。事業所はサービス付き高齢者住宅内にはあるが、住宅内の利用者とそれ以外の利用者の比率差も年々縮まっている。 2021年2月実績(住居27人:地域18人)	2020年度の事業報告を閲覧したが、地域への広がりがみられ高く評価したい。報告によれば、提供地域の広がりには目をみはるものがある。徳前(とくぜん)、小正(おばさ)、椿、菰田(こもた)、柏の森(かやのもり)、伊規須(いぎす)、額田(かいた)、枝国、上三緒(かみみお)、下三緒(しもみお)、鯉田(なますだ)、平恒(ひらつね)、弁分(べんぶん)、吉原、平塚、秋松、目尾(しやかの)と、地元でも知る人の少ない難読字の地域をもカバーしている。ちなみに、目尾(しやかの)はかつての著名な採炭地で、外部評価者の高齢の利用者も、この地名には記憶があった。この介護形態の役割の自覚が強くなされていると評価すべきところであり、「地域密着型介護サービス」の特徴を最大限活かしていることを高く評価したい。この場合、住宅内と地域でサービス提供の条件に著しい差があることから、その努力に敬意を表する。ユニバーサルサービスの観点から、形式的均一ではなく、利用者の地域や居宅条件、家族形態の相違などから極めて困難なサービス形態であり、開拓者の精神をもって経験を積まれることを希望する。2020年 事業報告にある③サービス提供事例(サービスの受け入れが困難)の「潜在が長く、事業所としては非効率ではあるが、…現在も支援継続」されていることを高く評価したい。通常いわれるところの「効率性」が、もっとも通用しない分野の一つである。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている (※任意評価項目)						

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅲ 結果評価(Outcome)									
①	サービス導入後の利用 者の変化	33	サービスの導入により、利用者ご との計画目標の達成が図られている		○			必ずしも導入前のサービスと比較 できるケースばかりではないが、 複数回短時間の訪問が介護に対 する受け入れの向上や生活リズム の把握につながり、個別計画に反 映出来ている。	
②	在宅生活の継続に対 する安心感	34	サービスの導入により、利用者等 において、在宅生活の継続に対する 安心感が得られている		○			ターミナルの利用者の受け入れ や骨折等による一時的な介助量 の増加など、幅広く対応を行うこ とで在宅生活を続けたいというニ ーズを支えることが出来ている。	人生は、いわば万人が参加するオリンピックで あり、高齢の利用者もまたそのアスリートである。 通常のオリンピックとの違いは、力や技を、ある いは時間の長短を競い合うのではなく、すべの ヒトがそのヒトなりに生涯を、ヒトとして可能な限り 尊厳ある生活でまっとうしえるかどうかにかかっ ている。家族介護から介護の社会化、すなわち 福祉の充実した国家形成に欠かせない事業部 門として、利用者人生のある時期において、介 護者が、利用者のよき伴走者、よき援助者、よき 理解者、よき相談相手、よき友として、未来永劫 絶えることなく人類だけがなしえるまことに崇高 な仕事として、それを日々絶え間なくなされてい ることに敬意を表したい。人間は考える葦である だけでなく介護する地上の星である。